

支	介
干	紹

今年は酉年(とりのとし)

平成17年は酉年です。十二支の動物の中で唯一の鳥類です。

干支の「酉」は「ニワトリ」のこと。鳥と聞いて鶏(ニワトリ)を思い浮かべる方も多いようですが、ニワトリはキジ目キジ科の鳥で、鳥の中でも古くから広く飼養され、人間と最もなじみの深い鳥といえます。原種はインドシナ・マレーに分布するセキショクヤケイ。卵用、肉用(コーチンなど)、愛玩用(長尾鶏・東天紅・チャボなど)と品種は極めて多く、色彩・形態もさまざまですが、みな頭頂に鶏冠(とが)を持っています。

ニワトリ(鶏)に関することわざや慣用句は、あまり聞きません。「鶏口(けいこう)となるも牛後(ぎうご)となるなかれ」は、鶏を小さな組織、牛を大きな組織にたとえて、大きな組織の属員になるよりは、小さな組織でもその頭となることのほうがよい、の意味。小さくとも勇ましい鶏の姿が思い浮かびます。

一方、「鳥」に関することわざ・慣用句は、いくつもありそうです。「籠(かご)の鳥」は、籠に入れられた

鳥は飛ぶに飛べないところから、自由を奪われていること。または、そのような境遇にある人。「飛ぶ鳥を落とす」は、空を飛んでいる鳥も落とすほどの威力があるさまのたとえ。逆に打ち落とされる鳥といえは、「石二鳥」。一つの石を

投げて2羽の鳥を同時に打ち落とす意から、1つの行為によって同時に2つの利益を得ることの意味。「閑古鳥が鳴く」は、貧しくてびいびいしているさま。また、商売などがはやらないさまをいいます。閑古鳥を追い払い、今年こそ本格的な景気回復でたくさんのご利益を、といきたいものです。

ニワトリといえば卵です。卵そのものを調理したものや、パンや菓子など卵を原料として用いている食品を含めれば、卵が私たちの食卓を飾らない日はないといってもいいでしょう。

その卵を、日本人は1年間にどのくらい食べているのがご存知ですか。過去の世界統計などによると、日本人は1人当たり年間3百個以上消費しており、これは世界

でもトップクラスです。ニワトリにはずいぶんお世話になっているわけですね。

「鶏鳴」という言葉があるように、ニワトリの鳴くころといえは明け方近く。朝を迎えるための合図でもあったニワトリの鳴き声を聞く機会は、ほとんどなくなつたといえます。鳴き声どころか最近はその姿を見かけることも少なくなりました。昔は農家の庭先などで飼われていて、文字どおり「ニワトリ(庭鳥)」でした。現在は鶏舎などで飼われることが多いため、身近に触れる機会も少なくなつてしまいました。

昨年は、鳥インフルエンザによる感染が問題となり、養鶏農家や私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしました。今年はそうした問題が起きないよう祈りたいものです。ともあれ、今年1年がよい年でありますように。



お誕生おめでとう

わたしのまち (11月末日現在)				お悔やみ申し上げます			
人口	3,040人	(3)		住所	氏名	亡くなった日	年齢
男	1,545人	(4)					
女	1,495人	(1)					
.....							
世帯数	1,480戸	(1)		幾寅	幾寅	住所	氏名
()内は前月比				加藤初江	及川信	平成16年11月18日	93
				大平将夢	今野遙也	平成16年10月29日	
						平成16年10月31日	